

学校の共通目標

授業作り	重 点	・どの教科においても、一単位時間の「学習の流れ」を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。	最 終 評 価
環境作り		・学習や行動のルールを校内で明確にし、生徒にわかるように示していく。 ・ICT機器を効果的に活用する。	

教科の取組内容

教科	令和元年度の定着度調査や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての生徒の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
国語	<p>調第2・3学年が全国の平均正答率を下回っている。達成率は第2学年が52%、第3学年が58.2%で、それぞれ学年が設定した目標値を下回っている。特に、〔領域〕「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、〔観点別〕「言語についての知識・理解・技能」において、目標値を大きく下回っている。第2・3学年の標準スコアを領域別に見ると共通して「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の数値が低い。設問別に見ると特に「漢字を読む・書く」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」といった内容の正答率が低かった。</p> <p>学日本語の習得、漢字の習得が十分でない生徒が多い。</p> <p>調第2・3学年ともに「話すこと・聞くこと」の領域の数値が低い。特に「話し合いの内容を聞き取る」問題において、正答率が全国平均を大きく下回っている。</p> <p>調第2学年は、「読むこと」の領域が良好であった。特に、説明文の内容を読み取る問題で全国平均を上回った。</p> <p>学ワークやテストから、文章や問題文の意味を正確に理解することに課題が見られる。</p> <p>学いずれの学年も、与えられたテーマに沿ってまとめた量の文章を書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。</p>	<p>・基礎的な漢字の読み書きを習得させる必要がある。</p> <p>・理解語彙を増やすとともに、使用語彙を増やすよう指導していく必要がある。</p> <p>・話し手の意図や工夫といった聞き取りのポイントを押さえさせる必要がある。</p> <p>・論理的に文章を読む力をつけさせる必要がある。</p> <p>・自分の考えを持たせ、書く習慣をつけさせる必要がある。</p>	<p>・漢字学習に、特別に時間を割き、継続して取り組ませる。級別漢字練習プリントを用意し、各自のペースで取り組めるようにする。放課後に補習を行ったり、長期休み明けに漢字コンテストを行ったりして、定着を図る。</p> <p>・授業クラスに人数分の辞書を持ち込み、辞書を引く習慣をつけさせる。授業中、便覧等を適宜参照させることで、社会的・文化的背景とともに言葉を具体的に理解させる。意味調べや短文づくりの課題を家庭学習に出す。</p> <p>・聞き取りテストを1か月に1回程度行う。（第1学年）</p> <p>・（第2・3学年）</p> <p>・「図との対応」「接続の把握」など、読解のポイントを絞ったドリルを用い、週1～2回授業内で文章を正確に読む練習を行う（第1学年）。</p> <p>・（第2・3学年）</p> <p>・毎授業、付箋等に感想や考えを書かせることで、書き慣れさせる。国語科新聞を通じて感想・考えの交流を推し進め、書く意欲を高めさせる。50～100字程度の課題作文を月に1回程度実施する。</p>		
社会	<p>調すべての項目において、目標値を下回っているが、1学年は全国平均と同程度のものである。</p> <p>調〔観点別〕で「読み解く力」に関する内容については、下回っている。</p> <p>学提出物や宿題など、出された課題に十分にに取り組むことができず、内容も文字数やテーマの設定など定められた条件で文書を書くことできない様子が見られる。</p>	<p>・学習の習慣化や家庭学習の取り組みなど、学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>・図や資料を用いた読み取る能力、文書や言葉に表す表現力を養えるようにする。</p>	<p>・基礎・基本の定着を図るため、毎授業の初めに前回の内容を振り返る活動を取入れる。</p> <p>・ワークを活用し、学習内容の振り返りを行う。</p> <p>・単元ごとに地理では地域学習、歴史では時代、公民では各制度のまとめの課題等を設定することで、思考・表現・判断力を養う。</p> <p>・宿題や課題に計画的に取り組ませる、学習習慣の定着を目指す。</p>		
数学	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果はおおむね良好であった。いずれの学年も基礎問題の正答率が全国平均を上回っている。</p> <p>〔正答率〕 全国比2年生+2%、3年生+2.8%いずれも平均値を超えている。</p> <p>〔観点別〕 2年生：関心・意欲・態度と見方・考え方の2観点において全国平均を下回る。</p> <p>3年生：すべての観点で全国平均を超えている。</p> <p>〔領域〕 2年生：関数が全国平均を下回る</p> <p>3年生：全領域で全国平均を上回る。</p> <p>学 定期考査、単元テストにおいて問題文の誤解釈による誤答がみられる。</p> <p>授業において問題演習の時間を確保することに課題がある。</p>	<p>・家庭学習の定着に課題がある。</p> <p>・基礎基本の強化をする必要がある。</p> <p>・既習の学習内容を用いて、自分の考えを表現する活動を増やす必要がある。</p>	<p>・目標、ポイント、まとめを示し、授業で扱う内容を厳選し、宿題をできる限り毎時間出す。その都度教員によるチェックと評価（スタンプ等）を行い、定着化を図る。</p> <p>・計算コンテストを毎学期行うほか、定期考査では学年を超えて既習の基礎的な問題を出題する。定期考査における技能観点の達成率で全学年増加を目指す。増加率に応じて次回の目標値を決定する。</p> <p>・毎回の授業において、どの既習内容を用いているか確認をして進める。生徒への発問の回数を増やし、教員による解説の前に生徒が考える時間を確保できるよう、授業改善を行う。</p>		

理科	<p>調 [正答率] 2年生は、全国の平均正答率を大きく下回っている。3年生も、全国の平均正答率を下回っているものの、基礎についてはおおむね良好であり、活用の面で課題がある。</p> <p>〔領域〕全領域において、平均を下回っているが、特に2年生は「粒子」、3年生は「生命」が全国平均を下回る。</p> <p>〔観点〕2年生は「知識・理解」、3年生は「関心・意欲・態度」</p>	<p>〔3年生〕基本的な理解はしているが、記述により解答する問題については正答率が低く、適切な言葉で説明する力をつける必要がある。</p> <p>〔2年〕正答率の低い問題に注目すると、用語を答えさせる問題で無回答が50%というものがある。基本的知識の理解とともに、漢字による用語を覚えきれていない生徒が多く、語句を書いて表現する力を身につける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を目指し、単元ごとに問題演習や小テストを行う。 ・図や表を読み取る際に、それらを表す語句を結び付けて、確実に覚えさせる。図と語句のセットで繰り返し説明し、語句の練習を補習しながら、定着を図る。 ・実験の授業では、結果のまとめと考察を丁寧に行い、目的を明らかにしていく過程を踏まえて説明させるとともに、考察を文章で適切に表現させることを重点的に行う。 		
英語	<p>調 第2・3学年ともに、全国の平均正答率を上回っているが、自治体平均には届かなかった。</p> <p>調 第2・3学年ともに、「聞くこと」に関する領域は全国の平均正答率を大きく上回っており、これまで学校が帯活動としてのリスニング問題演習などに取り組んできた成果と言える。</p> <p>調 〔観点別〕3年生の「表現力」が目標値を下回っている。特に、場面に応じて書く英作文など個応用力が問われる領域は、大きく下回っている。</p> <p>調 〔観点別〕2年生の「思考・判断力」に関する内容では目標値を下回っている。特に語形語法の知識・理解や語彙の知識・理解の問題など、応用力が問われる領域は、大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の習慣化、宿題への取り組みに課題がある。 ・書くことへの苦手意識を取り除き、たくさん練習する機会の提供および添削指導の必要がある。 ・基本的な文法について、既習事項を定着させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間デジタル教科書をはじめとしたICT機器を活用し、音声を繰り返し練習したり、視覚的情報を多く提供することで、理解度の向上を目指す。 ・毎回宿題を出し、学習の習慣を図る。 ・少人数授業を行う中で生徒同士が助け合いながらペア活動（ペアでの練習）やスキット発表などの課題に取り組みせる機会を多く作り、基礎的・基本的事項の定着を図る。教師は全体を把握しつつ個別指導にもあたる。 ・学期の初めにスペリングコンテストを行い、基本的な単語のつづり（スペリング）の習得を目指す。また、定期的に単元テストを行い、学習内容の定着を図る。 		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。